

6. 地域の教育プログラム

6.1 概要

「教育」は事前復興の取り組みを深化させるための重要な要素であり、それは南海トラフ地震が襲来する日までの数十年間は継続されなければならない。本研究における教育プログラムの対象者は行政職員と地域住民である。本章では地域住民に対する“小学生から大人までが連続して学び考える教育プログラム”の開発と実践の取り組みについて、初年度の活動をまとめる。

事前復興において重要なことの一つは、それが住民参加による取り組みでなければならないということである。地域の住民と行政がともに考えることで、事前に復興の姿（行うこと）を共有し、被災後の復興にむけての合意形成を速やかに行うための準備とする必要がある。そのための住民への事前復興教育のあり方（姿勢）として、まず、事前復興は災害という負のイメージで考えるのではなく、地域にとっての新しいまちづくり（希望）としてとらえるという視点が重要である。特に小中学生に対する教育姿勢としては留意すべき点であろう。また、それは地域内において、あるいは地域を越えて、若く若い年代から青年、成人、高齢者までの各年代の住民が繰り返し学ぶ機会を提供する必要がある。以上のような考え方を基本に、地域における教育プログラムの開発を行う。本年度は、作品募集（コンテスト形式）や小学校の総合学習内での授業案を提示し、意見収集や試行を行った。

6.2 “みんなが笑顔で過ごせるまちづくり”作品募集の起案

現地調査の際のヒアリングにおいて大人の方々から様々な考えを聞く中で、比較的、現状や将来に対しては悲観的な意見が多く、“子どもたちに何を残したいのか”という言葉はあまりなかったように感じられた。それは災害というネガティブなイメージからはポジティブな未来を予想できないからであるとも考えられた。そこで、将来を担う子どもたちに、自分達のまちをもっと良くするにはどうしたら良いかを、子ども自身が考え学習する機会を設けたいとの考えから、“未来へのまちづくり”という観点で地域を維持するために何が必要なのかを話し合い、郷土愛を育む活動をすることで新しい事前復興につながると良いと考え、ポスター形式で「みんなが笑顔で過ごせるまちづくり」の作品募集を行い、未来に向かって“ともに考える”ための学習の機会を設けることを起案した。企画はコンクール形式とし、優秀な作品は表彰することとした。

本年度はその試行として、合同地震津波避難訓練に参加する文京地区5校を対象に作品を募集することに取り組んだ。そのため、夏休みの自由研究として位置づけ、1校あたり10件程度の応募を7月初旬に依頼するとともに、本案に対するヒアリングを行った。

6.2.1 起案内容

作品募集のテーマと募集作品、作品への期待は以下のとおりである。この内容を、「先生方への説明資料」、「募集要項：小中学生のみなさんへ」、「募集要項：高校生のみなさんへ」にまとめた。

【テーマ】

テーマは小中学生と高校生のふたつに分け、それぞれ以下の内容について提案を募集する。

小中学生： 『守りたいまちの宝』

高校生： 『未来につなげるまちづくり』

【募集作品】

下表の内容を学習し、自分の考えについて提案を求める。作品は、自分の考えが多くの人に伝わるように、文字だけでなく写真や図や絵を用い、タイトル（キャッチコピー）も考えて、1枚の四つ切用紙にまとめるポスター形式とする。

<小中学生>

○調べること ・南海トラフ地震について ・地震の被害 ・あなたのまちの危ないところ	○考えること ・守りたいまちの宝 ・なぜ守りたいのか ・どうしたら守れるのか
--	---

<高校生>

○学習し、提案に含めること ・南海トラフ地震があなたのまちに及ぼす影響（または可能性） ・あなたのまちの未来のために、そして地震災害を乗り越えるための取り組み

【作品への期待】

小中学生の子どもたちには、南海トラフ地震の災害からまちの宝（有形，無形）を守るための新しいまちづくりについて、大人へのインタビューを促す。その上で子供たちの自由な発想を生かした作品を期待する。

高校生には、さらに現在における地域の課題（過疎や産業の衰退など）から脱するという視点と併せて、未来へとつながる新たなまちづくりの取り組みが提案されることを期待する。

6.2.2 ヒアリング結果

ヒアリング結果より、比較的、企画を受け入れていただけたのは SSH（Super Science High School）や SGH（Super Global High School）の指定を受ける高校や教育校であったが、そこには課題研究授業のテーマに加えることが可能という背景があった（ただし、実施時期については調整が必要）。その一方で、小・中学校においては、夏休み学習（自由研究）の検討時期が過ぎていること、またそれ以上に作品募集の内容が高度で難しいとの印象があり、事前の防災学習が十分でなければ対応が難しいというような感想であった。

以上のことから、この企画の内容および実施の時期については、今後再考することとして、次の防災教育に事前復興のエッセンスを加えること、そして地域全体に展開する試みを検討することとした。

6.3 防災・事前復興教育のための学習プログラムの地域構築

現在の南海トラフ地震に対する防災教育として、『いのちを守る』ための学習（ハザードマップ作りなど）が行われていることが多い。死者を出さないための取り組みは何よりも重要な課題である。しかし次の段階として、災害規模が最悪の事態となった場合（大災害）には、命が助かった後の生活再建（復興）への道程が困難を極めることになり、そのために今からできることを考え、備えておく必要がある。そのための「事前復興」という取り組みについて学習するとともに、地域の住民と行政がともに考え、新たに築くまち（復興）の姿と事前に行うことを共有し、災害が現実となったときには被災後の復興にむけての合意形成を速やかに行うための準備とする必要がある。そのため、地域内または地域を越えて、若い（若い）年代から青年，成人，高齢者までの住民が繰り返し学ぶ機会が必要とされる。そのような趣意より、事前復興のための活動の一つとして「防災・事前復興教育のための学習プログラムの地域構築」を提案した。

6.3.1 事前復興の要素を加えた学習プログラム

本学習プログラムの内容と目的、および地域コラボレーションの構図（図 6-1）は以下のようである。

【学習の内容と目的】

- ・学習内容は、現在行われている防災教育に、事前復興のエッセンスを加える。図 6-2、6-3 に示すように、ハザードと社会環境の重なりにより災害が発生するという視点を基礎として、事前復興のエッセンスを防災教育に付加する。
- ・この学習より、小中学生は“思考の芽生え”，高校生は“概念の再構築”を目的とする。

【地域のコラボレーション】

- ・この学習と高校生の指導（教える），保護者の参加（ともに考える），地域の発表会（考えを知る）ことを介し，地域における未来のまちづくり（事前復興）を考える土壌を育む。

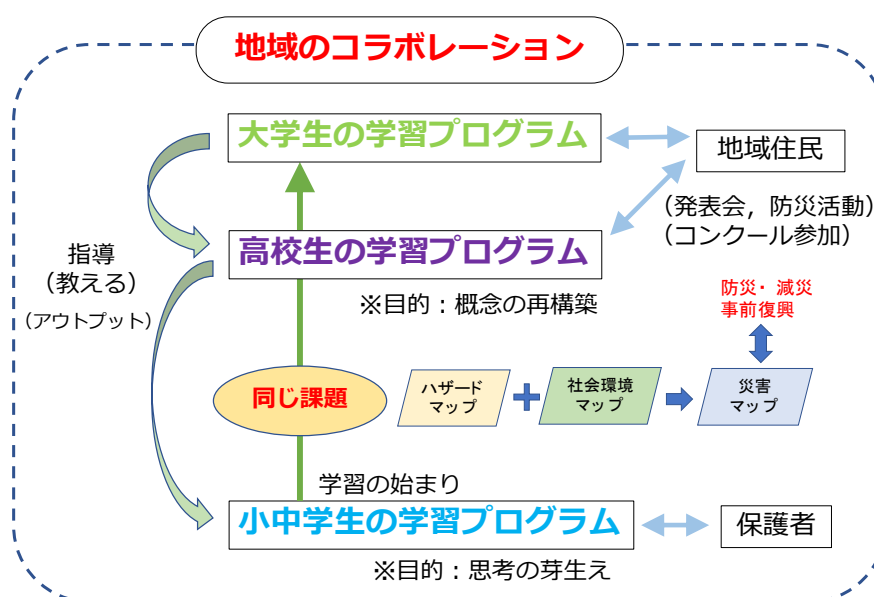


図 6-1 防災・事前復興教育のための学習プログラムの地域構築

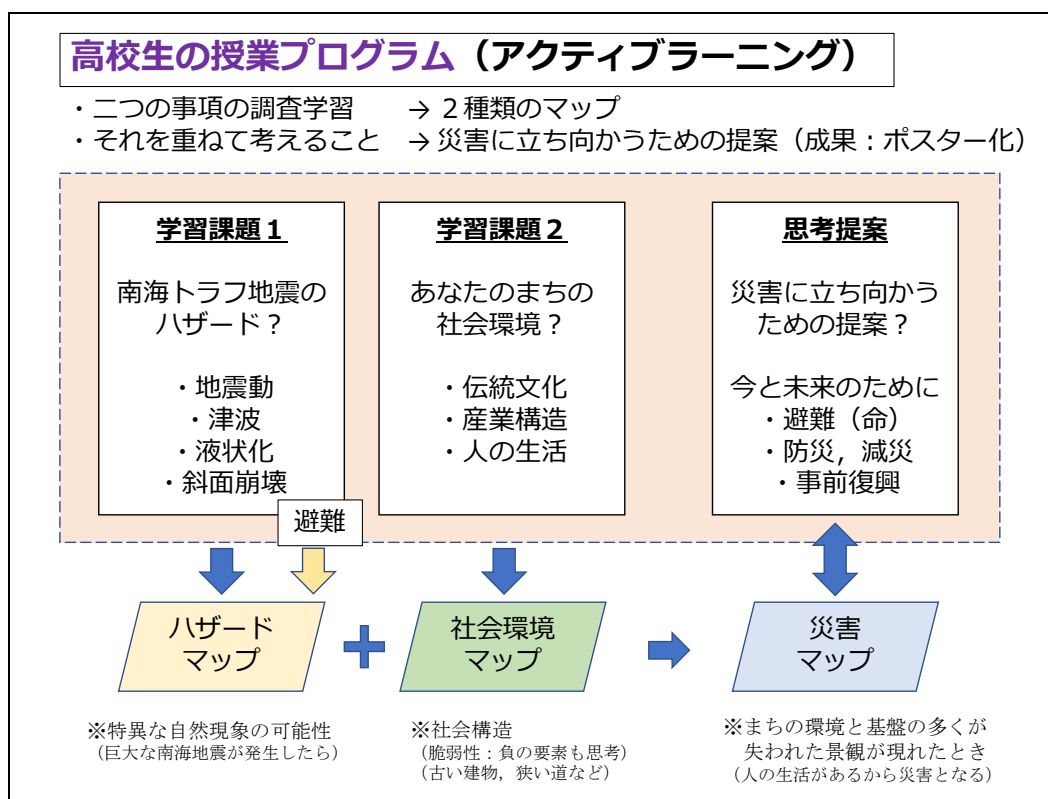
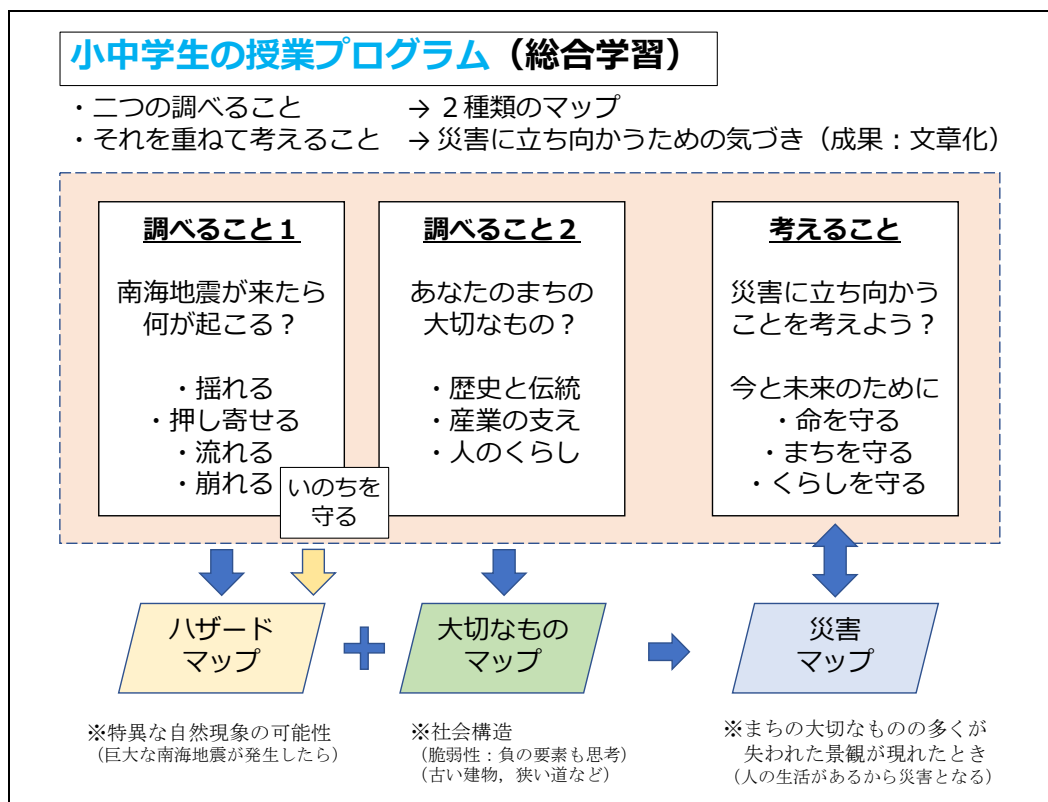


図 6-2 学習プログラムの構成

(上：小・中学生，下：高校生)

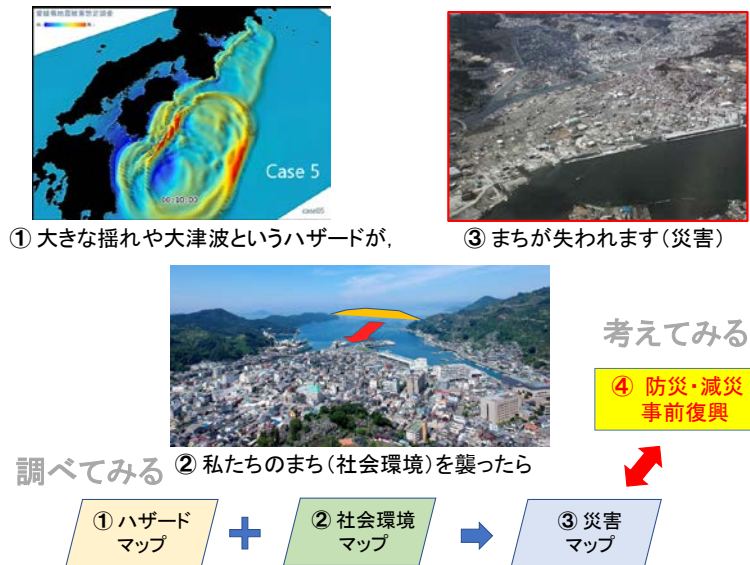


図 6-3 学習プログラムのイメージ

6.3.2 学習プログラムの試行

八幡浜市立白浜小学校において、5年生の防災授業の中で本学習プログラムの試行を行っていた。同校では数年前より、八幡浜市職員が協力し、ハザードマップをもとに市内の歩き学習（危険箇所の把握）を行って防災マップの作成を防災授業として実施している。その授業の中に図 6-2 に示す枠組みの授業内容を付加していただいた。なお、ここで試行された授業素材は、全て同校の教員や八幡浜市職員が試行されたものである。

写真 6-1 と写真 6-2 に、学習プログラムの試行風景を示す。授業の進行は以下のようなものである。これより全体を通して小学生の吸収力の高さが確認された。防災教育の下地がある学校では、この種の授業を行うことが十分に可能であり、“思考の芽生え”としての効果が見込まれる。

①調べること 1：ハザードマップと避難のマップの作成〔写真 6-1(1)〕

八幡浜市から提供された津波浸水マップなどを地図上（透明シート）に転記（危険マップ）。また津波から避難していのちを守る場所（避難ビルと一時避難所）も転記（おたすけマップ）。

②調べること 2：まちの大切なものを調べる〔写真 6-1(2)〕

宿題として、まちの大切なものを表にまとめて持参。これより家では保護者（大人）とも考える機会ともなっている。授業ではグループ内で各人のものを地図上で一緒になって考える。

③考えること：まちの大切なものにハザードを重ねる〔写真 6-1(3)〕

グループでまとめた結果を一覧表にまとめ、地図上に転記（まもりたいもののマップ）。そしてハザードと重ねてみる。

④授業での発表〔写真 6-1(4)〕

この段階で、授業での発表を行う。生き生きとしているところが良い。

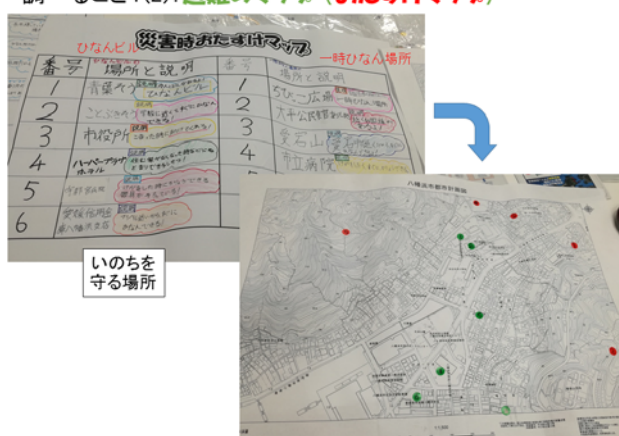
⑤まとめの課題（考え・話し合うこと、絵に表現）〔写真 6-2〕

最後に、事前復興を考え・話し合うことが行われ、それを絵にまとめることも試みられた。

調べること1: ハザードマップ (みけんマップ)



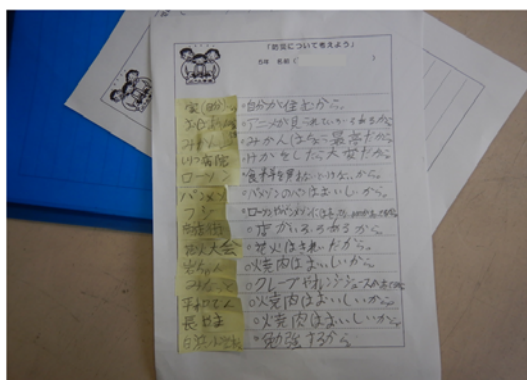
調べること1(2): 避難のマップ (おたすけマップ)



(1) 調べること1: ハザードマップと避難のマップの作成

調べること2: まちの大切なものを調べる (残したいもの)

まずは、宿題として(家の中で、大人とも一緒に)考え、調べる。



調べること2: まちの大切なものを調べる (残したいもの)

次に、学校で(みんなと一緒に)考え、大切なものをまとめる。



(2) 調べること2: まちの大切なものを調べる

考えること: まちの大切なものにハザードを重ねる



(3) 考えること: まちの大切なものにハザードを重ねる

考えること: 授業での発表

【地域コンクール】

- ・授業の着地点として
- ・社会環境などが違う他地域のことも学ぶ
- ・地域内で大人とともに学ぶ機会として



(4) 授業での発表

写真 6-1 事前復興の要素を加えた学習プログラムの試行風景 (八幡浜市立白浜小学校にて)



津波が、私たちのまちを襲ったら



事前復興(じぜんふっこう)を考えよう！

考える・話し合う内容	大切なもの・人	どこに(なぜ)	どんな工夫(どのように)
① 1日でも無いとこまるもの (壊れるとこまるもの)	病院、老人ホーム、家、救急隊、市役所	今のところ	土地を高くする
② すぐしの時間なくてもよいもの (壊れてもすぐ立てなおせばよいもの)	店、薬局、ナソリンスタンド、銀行、パン屋、コンビニ、郵便局、みなど湯	今のところ	三階建てにする
③ 時間をかけても、必要なもの (壊れてもいつか立てなおす必要があるもの)	みなと、消防、学校、公民館、公民館、スポンサー、フジ	土地を高くして、その分の土地を買いあげて	たいしんはを強くね
④ 昔からある大切なもの (ずっとのこしていく必要があるもの)	防災ごう、おはか、神社、イーグル、うめ屋、まるやま、商店街	今のところ	たいしんはを強くね
⑤ 新しくつくる必要があるもの (今ないが、これから必要になるもの)	新しいぼう(防波堤)	土地を高くして、その分の土地を買いあげて、その分を生かす。	防波堤を高くする
その他	新しい電話、家族(全部)	いろんなところ	たくさん立てる、家族でどこにたのむする、きめておく。

(5) まとめの課題(考え・話し合うこと、絵に表現)

写真 6-2 事前復興の要素を加えた学習プログラムの試行風景(八幡浜市立白浜小学校にて)

6.4 次年度の取り組みについて

本年度の成果を受けて、次年度は図 6-1 のフローを埋めるための試行に取り組む。そのため、宇和島市文京地区などの各校に依頼を行う。

①小学生の授業プログラム

- ・漁村集落に位置する小学校での本プログラム(枠組み)の試行
- ・防災教育の下地が薄い小学校における試行またはその実施ための準備(防災教育)

②中学生の授業プログラム

- ・図 6-2 の授業プログラムのフレームを意図した試行またはそのための準備(防災教育)

③高校生の授業プログラム

- ・SSH 校や SGH 校の課題研究における事前復興(まちづくり)をテーマとする取り組み
- ・全校生徒に、例えばホームルームでのディスカッションとしての実施手法の開発と試行
(案:復興における立場の違いをロールプレイする討論より多面的な視野を養う)
- ・その他の試み

④地域のコーポレーション

- ・地域内での発表と意見交換、フォーラム内での発表会を計画